



邑楽南中学校3年生
小林実世さん
Miyo Kobayashi

ひいばあちゃんの笑顔、あの笑顔をも
た見たいから、私は今日も「ひいば
あちゃんお助け作戦」を実行します。

Close up★少年の主張

自身の経験も交えて「高齢者社会について」主張
**私たち中学生にだって、
できることはある**

第35回少年の主張県大会で、
邑楽南中学校3年の小林実世さんが、
見事優秀賞に輝きました。



護について取り上げ、「ひいばあちゃんお助け作戦」と題して、「中学生にもできることがある」ということを主張。そして、「身近なお年寄りに声をかけること、ふれあうことでもよいのです。私たち一人ひとりが、お年寄りにできることをまず実行する。これこそが、お年寄りに優しい社会を実現する第一歩になる」と述べました。

小林さんは、「まさか自分が優秀賞を受賞するとは思わなかった。家族も驚いていました」と話します。

約2か月かけて考えをまとめ、自分の主張がきちんと伝わるように、気をつけて何度も何度も推敲したそうです。

「やっぱり同じ中学生に共感してほしいです。高齢者社会になっても中学生にだってできることがあるということを知ってほしいと思います」。

ひいおばあさんとは幼い頃、お手玉やおはじきで遊んだ記憶があるという小林さん。自身の主張には、そんな優しい笑顔のひいおばあさんへの想いも込められているのではないだろうか。

少年の主張県大会 優秀賞受賞

高齢者社会について

邑楽町立邑楽南中学校三年

小林実世

私の曾祖母は、現在九十六歳です。数年前までは、庭の草をむしったり、洗濯をしたりと、元気に動いていました。しかし、ここ数年、急に体が動かなくなってきました。そこで、家の廊下に手すりをつけたり手押し車や杖を用意したりして、少しでも動けるように工夫しました。曾祖母は「ありがとね。歩くのが少し楽になったよ。」と言って喜んでいました。

しかし、曾祖母の衰えは、体力にどまりません。誕生日や年齢を尋ねても答えられない。家族の名前が出てこない。十分ほど前に食事をしたばかりなのに、それすら忘れてしまう。そんな場面がしばしば見られるようになってきました。話す言葉もめっきり減り、一人で部屋にいることも多くなりました。

曾祖母の世話は、主に祖母がしています。食事の世話、トイレ

いや入浴の手伝いなどです。家の風呂の浴槽は深く、曾祖母の体を引き上げるには、とても力が必要です。また、曾祖母は温度に対する感覚が鈍くなったのか真夏でも部屋の窓を閉め切ってしまう。熱中症になるのではないかと、家族は気が気ではありません。

曾祖母の面倒を見ている祖母は、七十五才。公民の授業で高齢者が高齢者を介護することを「老々介護」と学びましたが、我が家はまさにその状態です。めったに弱音を吐かない祖母も、最近「疲れた。」と漏らすことが多くなりました。

そんな祖母の姿を見て、私は「自分も家族の一員。曾祖母のために、わたしにできることは何かないか。」と考え、三つのことを実行することにしました。名付けて「ひいばあちゃんお助け作戦」です。

まず一つ目は、「ひいばあちゃん」の食事の時の世話です。目がよく見えない曾祖母はお皿の上の食べ物に気がつかないことがあります。「ここにもあるよ。」と、

わたしが隣で声をかけます。おさすが大きくて食べにくい時には、小さく切り分けました。また、むせないように、汁ものを飲むように勧めました。

二つ目は「ひいばあちゃん」の部屋を快適にする「こい」です。曾祖母はどんなに暑くても、夜になると、部屋の雨戸まで閉めてしまいます。部屋の様子を見に行き、窓を開けたり、エアコンを操作したりして、温度を調整するように心がけました。

三つ目は、「ひいばあちゃん」とたくさんふれあうことです。私が読んだ介護の本にはじゃんけんや簡単な手遊びがリハビリにもなると載っていました。体操部で学んだストレッチも一緒にやってみました。じゃんけんや私に続けて勝った時、曾祖母は久しぶりの笑顔でした。それは、昔私が一緒に遊んでもらった時に見た、とてもやさしい笑顔だったのです。

私たちは、今高齢化社会の中で生きています。日本では六十五才以上のお年寄りの割合が、総人口のおよそ四分の一を

占めています。そして、この割合はますます増えていくというのです。

お年寄りに優しい社会を作るために大切なことは、何でしょうか。ホームヘルパーや介護施設を増やすことも重要でしょう。では、「あなたたち中学生には、何ができるの。」と問いかけられたら、あなたは何か答えられますか。

「そんなことは大人が考えればいいよ。」中学生に大したことではないよ。「と答える人も多いと思います。しかし、私は「ひいばあちゃんお助け作戦」を実行してみたい。「私たち中学生にもできることがある。」ということに気づきました。私のように、身近なお年寄りに声をかけること、ふれあうことでもよいのです。私たち一人ひとりが、お年寄りにできることをまず実行する。これこそが、お年寄りに優しい社会を実現する第一歩になるのではないだろうか。

ひいばあちゃんの笑顔、あの笑顔をも見たいから、私は今日も「ひいばあちゃんお助け作戦」を実行します。

●表記などは、原文のまま掲載しています。